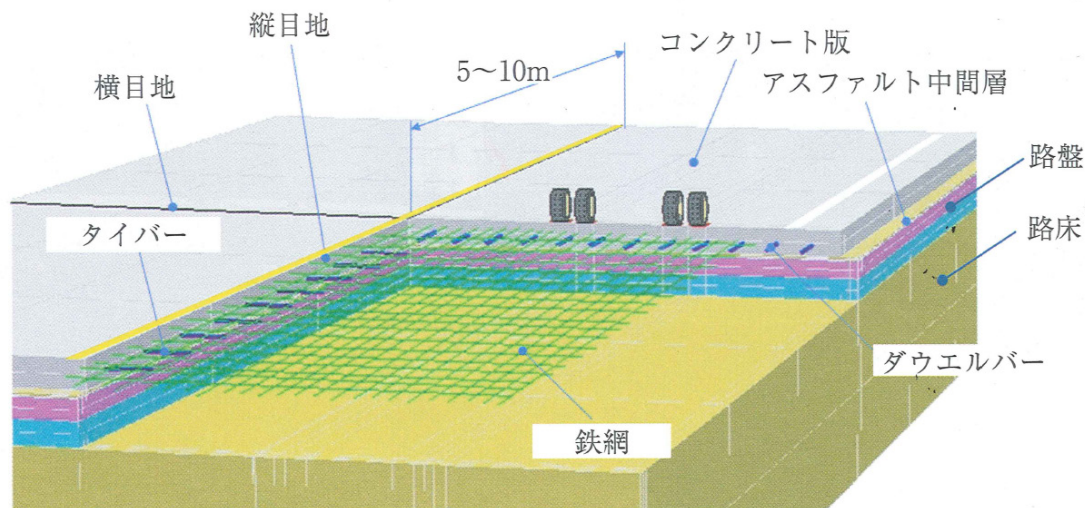


付録 1 用語の説明



付図 1.1 普通コンクリート舗装の構造¹⁾

フレッシュコンクリート：まだ固まらないコンクリート。

ダウエルバー：横目地（膨張目地、収縮目地）を横断している丸棒。

【補足】横目地部の荷重伝達をはかり、収縮を追随できるように片側にアスファルトなどを塗布し、スリップできるようにしている。膨張目地に用いるダウエルバーはコンクリート版の膨張に追随できるようにキャップをアスファルト等を塗布した側にかぶせる。スリップバーとも呼ばれる。

タイバー：縦目地（ダミー目地、突合せ目地）を横断している異形棒鋼。

【補足】タイバーにより目地が開いたり、くい違ったりするのを防ぐ働きをする。

横目地：道路の軸方向に直角に設置する目地。

【補足】働きによって、収縮目地と膨張目地に分類される。

縦目地：道路方向に平行に造る目地。

【補足】二車線を同時に施工する場合にはタイバーを使ったダミー目地、一車線ずつ施工する場合には、ねじつきタイバーを用いた突合わせ目地となる。また、排水溝などに接する場合は膨張目地となる。

膨張目地：コンクリート版の膨張を自由に起こさせることによって、応力の軽減を図るための目地。

【補足】目地幅は一般に 25mm。目地板・注入目地材によって水密性を保ち、ダウエルバーによって補強する（排水溝などに接する膨張目地ではダウエルバーは用いない）。膨張目地は設置する場所によって横膨張目地と縦膨張目地とがある。

収縮目地：コンクリート版の収縮を自由に起こさせることによって応力の低減をはかり、

ひび割れの発生を防止するための横目地。

【補足】目地幅は一般に 6~10mm。収縮目地間隔は、一般に 10m 以下とし、8m および 10m が標準である。収縮目地はダウエルバーを用いたダミー目地構造とする。

鉄網：網目状の鉄筋。

【補足】コンクリート版のひび割れ発生後の耐久性を確保させるために挿入される。

ダミー目地：不規則な初期ひび割れを抑制するための収縮目地。

【補足】原則的に、コンクリートの硬化後にカッタを用いて幅 6~10mm 程度、深さ 70mm 程度の目地溝を造り、目地材を注入する。

突合せ目地：硬化したコンクリート版に突き合わせて隣り合ったコンクリート版を打ち込むときに造る収縮目地。

【補足】横目地ではダウエルバーを用いた突合せ目地となり、縦目地ではタイバーを用いた突合せ目地となる。

スリップバー：ダウエルバーのこと。

【引用文献】

- 1) 日本道路協会：コンクリート舗装に関する技術資料，2009
- 2) 日本道路協会：道路用語辞典 第3版，1997
- 3) 土木学会：2007年制定 舗装標準示方書，2007